AIDS UPDATE

No.10 1999.6.2

広島大学医学部附属病院
エイズ医療対策室
内線2941（輸血部副部長室）
Internet:www.aids-chushi.or.jp

治療の手引き

◆　日本のエイズ専門医20名が集まり、現時点で日本で実行でき、推奨できるHIV感染症の治療法をガイドラインとして示しました。この治療の手引きは“鷹派”と“鳩派”の両方の考え方が提示されています。また丁寧な解説を心がけているので、少し説明の文章が多い気もしますが、過不足はないと思います。特に「アドヒアランスが治療の決め手」と大書したことは、この研究会のスタンスを示すものです。

◆　ガイドラインというものは、その時点で最良と思われるものですが、時間とともに変わりうるものです。しかし敢えてガイドラインから外れる治療を選ぶ場合、医師はそれなりの根拠を持つ必要があると思われます。

◆　最後のページに、現在日本で市販されている10種類の抗HIV薬のリストがあります。いくつ知っていましたか？　一般名、商品名、略号を含めると名前だけでも30あります。間違えないようにしないと大変です。使い方も慣れないと難しいので、初めて処方する方は必ず相談して下さい。

*Dr. Feldman*講演会

◆　Feldman先生はカリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究センターのスタッフです。日本の医療従事者が多数アメリカでエイズ研修を受けています。本院のスタッフも数名Feldman先生にお世話になりました。先生が日本に短期滞在の間、広島にお招きして講演会を持つことになりました。日本語通訳もついていますし、スライド原稿は印刷して配布しますので、わかりやすいと思います。今回の世話人は小児科の加藤先生です。

＜ご意見募集＞

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。[TAKATA, OE]

takata@aids-chushi.or.jp